

事業報告

<研修名>

令和元年度 「協育」ネットワーク連携促進事業
第2回地域学校協働活動研修会「地域学校協働活動推進フォーラム」

<開催日時>

令和2年2月14日(金) 10:15~14:40

<会場>

大分県立図書館 視聴覚ホール

<参加人数>

75名

<研修趣旨>

コミュニティ・スクールと連携した地域学校協働活動を推進するため、中核となる統括アドバイザー・「協育」コーディネーター等関係者を対象に、講義や取組事例をとおして活動の意義と連携の方策について学ぶ場とする。

<研修内容>

【研修1】▼連携アプローチ取組事例紹介 中津市及び佐伯市の事例

発表：大分県教育庁社会教育課 主任社会教育主事等

助言：玖珠町教育委員会教育長

文部科学省コミュニティ・スクール推進員 梶原 敏明 氏

中津市の事例は今津校区の取組を取り上げ、コミュニティ・スクール（CS）導入の理由、校務分掌にCS担当を新設、CS運営のコツ（地域組織、意思疎通、当事者意識）等についての発表でした。佐伯市の事例は、鶴谷中学校区・佐伯南中学校区・上堅田小学校区の取組例、コーディネーターの声、学習場面（生活科、総合的な学習）等についての発表でした。

取組についての助言だけではなく、「コミュニティ・スクールと連携した地域学校協働活動の推進」と題してコミュニティ・スクールの仕組み、国の施策等の説明もあり事例と関連付けながら理解することができました。

【研修2】▼基調講演「協働活動がもたらす教育の未来」

講師：教育改革実践家 藤原 和博 氏

スクリーンとホワイトボードを使いながら教育の未来について多くのことを御提案されました。講演中に行ったブレインストーミングやディベートにより、新しい発想をもつことが簡単ではないことを実感しました。正解ばかりを考えようとするのではなく、みんなが「納得する解（納得解）」は何か考えることが新しい発想へつながると話されました。家のイラストを使いながら、柱:タテの関係・梁:ヨコの関係・筋交い:ナナメの関係（地域社会、兄妹、祖父母等）と位置付け、ナナメの関係だからこそ育つ力があると言います。

学校・地域の双方に学びが存在し、地域が学校を育て、学校が地域を育てるよりよい循環をつくっていくことが大切だと思いました。

<当日の様子(写真)>

【研修1】▼連携アプローチ取組事例紹介
教育庁社会教育課 後藤主任社会教育主事



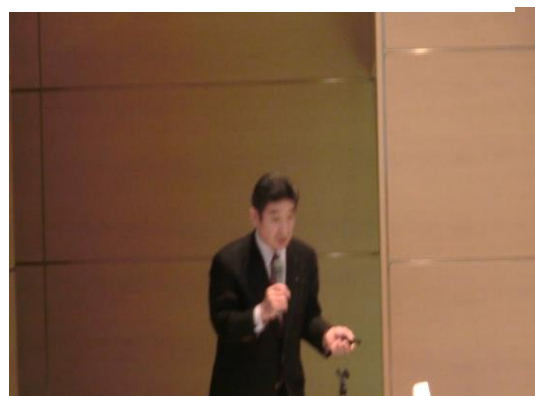
【研修1】▼連携アプローチ取組事例紹介
教育庁社会教育課 栗本指導主事



【研修1】▼連携アプローチ取組事例紹介 助言
玖珠町教育委員会教育長 梶原 敏明 氏



【研修1】▼連携アプローチ取組事例紹介 助言
玖珠町教育委員会教育長 梶原 敏明 氏



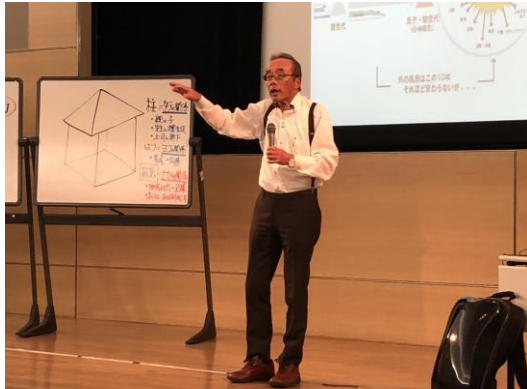
【研修2】▼講演
教育改革実践家 藤原 和博 氏



【研修2】▼講演
話合いの様子



【研修2】▼講演
教育改革実践家 藤原 和博氏



【研修2】▼講演



<参加者感想>

- 梶原先生の話がわかりやすく、今後の方向性を知ることができた。
- 子ども達の筋交いになりたいと思った。
- 未来のことを想像しながら、今何を学ばせるか考えなければいけないことがわかった。
- 具体的な事例があり参考になった。
- 情報処理力より情報編集力が大切だとわかった。
- ブレインストーミングやディベートの時間があり、ただ話を聞くだけではないやり方により楽しく、より深く理解できた。
- 少子高齢化の地域で「学校を核とした地域づくり」ができるのだろうかと思っていたが、講演を聞き、私たちの仕事の役割を理解できた。